

日本細菌学会

関東支部ニュース

第23号

支部長就任の挨拶

この度、評議員の方々の御推挙により、新支部長に選出されました。評議員でもない者が選ばれましたので、まさに青天のへきれきでありました。

本支部は日本細菌学会の半数を超える会員をかかえる大組織であります。私は平成7年春に東京大学医科学研究所を定年退官する予定でありますから、何かと皆様にご迷惑をお掛けすることになろうかとためらいましたが、推薦いただいた先生方のお勧めもあり、その御厚志に報いるのが最善の道と判断しました。

私は細菌学会の本部の運営には多少は通じているつもりですが、関東支部の運営にはほとんどタッチしたことがなく、何も分かっていません。およそ二十年前、近藤勇支部長のもとで支部長推薦の評議員としてお手伝いしたくらいの経験しかありません。幸いにして現評議員の中には永年支部の運営に係わってこられたベテランも多く、島村前支部長にもいろいろ教えていただきつつあります。なるべく早急に事情を理解して、支部運営に支障がないよう努力したいと思います。具体的に次期の支部運営の方針や委員会の担当者等の決定は平成7年1月に開催予定の第1回評議員会において、評議員の方々とご相談のうえで決定します。

支部長 吉川 昌之介
東京大学医科学研究所細菌研究部教授



突然のことでもあり、抱負を申し上げる心境にはまだなっておりません。外野にいて無責任なことをいっていたのを今、公の場にすぐ持ち出す訳にもいきませんので良く熟慮の上で実行可能なことから順次手を付けたいと考えています。この十年余、歴代支部長および支部評議員の方々は、支部活動の衰退を憂い、その活性化のために頑張ってきてくれました。その御努力は大変なものであったと思います。おかげ様でかなり上向きになって来たと思います。この支部活性化の努力の火だけは消すことなく続けようと決意しております。

どうぞ会員の皆様の御鞭撻と御協力を賜わりますようお願い申し上げます。

支部長退任のご挨拶

島村 忠勝

1994年11月、館山寺での関東支部総会および事務局の引継ぎを終え、平成4年～6年期の支部長の任務を滞りなく全うすることができました。就任当初は若輩の私が支部長として責任ある行動がとれるかどうか大変不安でした。しかし、評議員並びに幹事の方々、総会長の方々、また、多くの会員の方々の暖かいご支援、ご協力に助けられ、なんとか3年間の任期を務めさせていただきました。ここに深く感謝の意を表したいと思います。長い間本当にありがとうございました。

就任の挨拶の時に、支部活動の活性化の維持と前進が私たちの使命であると述べましたが、振り返ってみますと私の力量不足もあってか現状維持に終わった感があります。しかし、評議員会では支部の活性化のために、評議員全員が熱意をもって活発に討論を重ねて下さいました。前期評議員会から燃え上がった活性化の火は日本細菌学会へと燃え広がり、会員の方々にも活性化への自覚が芽生えてきたように思われます。

最も重要な支部の活動である支部総会は各総会長の活性化の意志の下に、それぞれ特徴ある総会を開催して下さいました。全体としては、特別講演は3題、教育講演は1題、シンポジウムは10件、教育シンポジウムは

1件、一般演題は37大学、7研究所、2企業から132題とバランスのとれた研究発表が行われ、非常に活発な討論がなされたと思います。

もう一つの重要な活動である支部ニュースも毎号10頁と頁数が増え、また、支部の活性化に関する会員の意見も掲載され、ここにも活性化の波が確実に広がりつつあることを感じました。しかし、心残りのことがあります。それは、評議員の方々の献身的とも言える非常なご努力にもかかわらず、「支部のあり方」に関する諸問題（名誉会員制度を含めた）を何ら解決できず、実行することが出来なかったことです。すべて支部長の責任と思っております。

新支部長には吉川昌之介教授が選出されていますし、新評議員のうち約半数の方々を引き続き評議員になられていますので、支部の活性化の具体的な成果が実現されますことを期待しています。また、新支部長はじめ、新評議員の方々には、関東支部の益々の発展のため、細菌学の一層の進展のためにご尽力下さいますようお願いいたします。

最後になりましたが、私に貴重な機会を与えて下さいました支部会員の皆様には厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

平成7年～9年期支部評議員・幹事紹介

【評議員】



新井 俊彦
明治薬科大学微生物学教室、教授、サルモネラの特異病原機構、アレルギー発現調節機構、癌遺伝子の疫学、薬物相互作用。



池田 達夫
帝京大学医学部細菌学教室、講師、Bacterial translocation、日和見感染の発症機序、BRMによる感染防御機構。



伊藤 武
東京都立衛生研究所
細菌第一研究科,
科長,
食中毒起因細菌の生
態と病原性に関する
研究。



井上松久
北里大学微生物学,
教授,
薬剤耐性の遺伝・生
化学, 化学療法と感
染症。



伊豫部志津子
群馬大学医学部薬剤
耐性菌実験施設,
助教授,
薬剤耐性菌の疫学と
耐性化の遺伝学的機
構。



梅本俊夫
神奈川歯科大学, 口
腔細菌学教室, 教授,
歯周病原細菌の病原
性に関する遺伝学的,
生化学的, 細胞生物
学的研究。



内山竹彦
東京女子医科大学微
生物学・免疫学教室,
教授,
微生物産物と免疫シ
ステムのかかわり,
スーパー抗原と内毒
素。



江川 清
昭和大学薬学部微生
物薬品化学教室,
講師,
内毒素と細胞内酸化
還元の変化による新
規遺伝子の発現につ
いて。



大 国 寿 士
日本医科大学老人病
研究所免疫部門,
教授,
化膿レンサ球菌感染
による続発症の発病
機構。



奥 田 克 爾
東京歯科大学微生物
学講座,
教授,
歯周病病原性細菌の
病原因子の解明。



川 原 一 芳
北里研究所基礎研究
所細菌研究室, 室長,
グラム陰性細菌の細
胞表層糖脂質, 病原
細菌の分子生物学的
研究。



近 藤 誠 一
城西大学薬学部微生
物学教室, 講師,
コレラ菌を中心とし
たビブリオ科細菌の
O抗原リポ多糖(LPS)
の化学と免疫化学。



佐藤 謙一
第一製薬探索第一研究所、主任研究員、キノロン剤作用・耐性機構研究、トポイソメラーズ阻害剤研究。



野田 公俊
千葉大学医学部微生物学第二講座、教授、ADP-リボシル化毒素を初めとする蛋白質毒素の作用機構に関する研究。



平松 啓一
順天堂大学医学部細菌学教室、教授、分子病原微生物学、化学療法学。



辨野 義己
理化学研究所微生物系統保存施設微生物分類室、室長、嫌気性菌の分類学的研究、ルーメン細菌の生態学的研究。



松浦 基博
自治医科大学微生物学教室、助教授、細菌表層物質（特に内毒素）の構造と生物活性。



水口 康雄
千葉県立衛生研究所、所長、抗酸菌の遺伝学。



宿前 利郎
東京薬科大学第一微生物学教室、教授、天然に存在する免疫調節物質の研究、特に(1-3)- β -D-グルカンの構造と生物活性相関。



山本 友子
杏林大学医学部微生物学講座、助教授、ストレス蛋白質の生理機能、特に細菌病原性発現における役割。

[幹事]



長井 伸也
日本生物科学研究所第三部、研究員、動物に感染する細菌の分子遺伝学的研究とその応用研究。



吉田 洋子
国立公衆衛生院衛生微生物学部、主任研究官、赤痢菌のO抗原に関する分子遺伝学的研究。

支部ニュース委員会活動総括

委員長新井俊彦

支部ニュースは支部会の活動を会員に知らせるために合田支部長によって始められ、以来、木村、徳永、島村支部長に引き継がれて、今特別号で23号になります。島村支部長の委嘱を受けて編集を受け継いだとき、評議員にアンケートして現在の内容を決定致しました。発行は、印刷・発送経費の制約から従来通り年2号とし、総会長挨拶、論壇、フォーラム、集会案内、委員会報告、小集会報告、議事録、人事消息、訃報で構成しております。具体的内容は発行の2カ月前に編集委員会を開いて、その号の編集テーマ、依頼原稿を決めております。

ニュースに関する一般会員のご意見を頂きたいと希望しておりましたが、今期の最後に会員全員にアンケートを行なう機会に恵まれ、193通の解答を頂きました。この結果を紹介することで3年間の活動総括とします。

ニュースの必要性については、回答者の88%が認めて下さいました。また、発行回数も87%の方が現状を支持して下さいました。紙面配分でも70%の方が現状を支持して下さいましたが、残りの30%の意見で増やすべきであると言う意見の多かったものは、集会案内、フォーラム、論壇の順で、逆に減らせと言う意見の多かったものは議事録、総会長挨拶でありました。これは、小数意見ではありますが、評議員会活動や総会のテーマを紹介すると言う創刊の意味が理解されておらず、読物と考えられていることを示しております。フォーラムの内容についての希望では、研究トピックの紹介が圧倒的に多く、若い研究者の意見、用語解説、海外レポート、ミニレビュー、会員の意見などが続いております。

紙面の都合でこれ以上の紹介は出来ませんが、この3年間の編集方針がその的外れでなかったことが判り、安心しております。ただ、支部活動を知って頂く方法について、更に一段の工夫が必要であることを痛感致しました。これと、更にフォーラムの内容を会員の求めるものに近づけることが今後の課題でしょう。

議事録

新評議員会

日時：1994年9月10日(土)、14時～17時
場所：昭和大学病院入院棟17階第五会議室
出席者：池田達夫、伊藤武、井上松久、伊藤部志津子、内山竹彦、梅本俊夫、大國寿士、奥田克爾、川原一芳、松浦基博、宿前利郎、山本友子、島村忠勝(支部長)、江川清、戸田真佐子(幹事)

欠席者：新井俊彦、近藤誠一

議題：支部長選出

選挙細則に従って評議員によって推薦された新井俊彦、河野恵、工藤泰雄、吉川昌之介の4氏について単記無記名投票を行ない、第一回の投票で過半数に達せず、新井、吉川氏で決選投票したが同数につき、選挙細則により籤で決することとなった。

追記：平成6年9月13日(火)、昭和大学医学部細菌学教室において島村支部長、江川、戸田両幹事の立ち会いのもと籤が行われ、吉川昌之介氏(東京大学医科学研究所教授)が新支部長に決定した。

新旧評議員会

日時：1994年10月22日(土)午後2時～5時
場所：昭和大学総合校舎1号館5階会議室
出席者：五十嵐英夫、池田達夫、井上松久、伊藤部志津子、内山竹彦、梅本俊夫、大國寿士、岡村登、奥田克爾、金森政人、川原一芳、河野恵、近藤誠一、竹田多恵、野沢龍嗣、松浦基博、宿前利郎、吉川昌之介(新支部長=オブザーバー)、吉田孝人(第72回支部長)、島村忠勝(支部長)江川清、戸田真佐子(幹事)

欠席者：新井俊彦、伊藤武、北野繁雄、黒坂公生、笹川千尋、島田俊雄、埴原宏文、鶴純明、辨野義己、三上襄、光岡知足、山本友子

議題：

1. 新支部長選出の件

島村支部長より選出経過の報告、吉川新支

部長の紹介

2. 第72回総会の件

吉田総会長より抄録配付、準備状況報告

3. 評議員選挙の件

河野選挙管理委員長より選挙結果の報告、幹事より選挙会計報告が行なわれた。

4. 会計監査の件

岡村監査委員より監査結果が報告された。

5. 平成6年度決算、7年度予算案の件

幹事よりの決算報告を承認。予算案を若干の修正後承認。

6. その他

1) 第73回総会シンポジウム演題の件

特に推薦する演題は出されず、評議員会に委員会を作る意見が出された。

2) 支部長会報告

学会事務は口腔保険協会、印刷・出版は中西印刷、広告代理業務は(株)中外に変更することが理事会で決定された。

3) 学会誌への支部総会抄録掲載の件

日細誌への抄録掲載の件は新評議員会に一任することになった。

4) 小委員会報告

編集委員会より支部ニュース23号は平成7年1月に発行予定と報告あり。

なお、新旧合同評議員会終了後、臨時新評議員会が開かれ、新支部長より推薦評議員および幹事候補が提案され、了承された。評議員：江川清(昭和大)、佐藤謙一(第一製薬)、野田公俊(千葉大)、平松啓一(順天堂大)、辨野義己(理研)、水口康雄(千葉衛研)、幹事：長井伸也(日生研)、吉田洋子(公衆衛生院)

第11回評議員会

日時：1994年11月10日(木)12時50分～13時

場所：遠鉄ホテルエンパイア会議室

出席者：新井俊彦、内山竹彦、黒坂公生、垣原宏文、野沢龍嗣、吉田孝人(第72回総会長)、島村忠勝(支部長)、戸田真佐子(幹事)

欠席者：五十嵐英夫、池田達夫、井上松久、伊豫部志津子、岡村登、奥田克爾、金森政人、北野繁雄、河野恵、笹川千尋、島田俊雄、竹田多恵、鶴純明

辨野義己、三上要、光岡知足、江川清(幹事)

1. 総会会務報告の件

1) 会員数(平成6年9月27日現在)名
誉会員29名、正会員1404名、学生会員55名、賛助会員42社、計1520

2) 評議員選挙

選出評議員(14名)：松浦基博、井上松久、伊豫部志津子、宿前利郎、池田達夫、大國寿士、山本友子、川原一芳、新井俊彦、伊藤武、内山竹彦、梅本俊夫、奥田克爾、近藤誠一

3) 支部長選出 吉川昌之介(東京大学医学部科学研究所教授)

4) 決算報告、予算案報告 内容説明

5) 会計監査報告 黒坂監査委員より平成6年度監査報告

2. 第73回総会の件

三瀬総会長欠席のため島村支部長より説明

日時：平成7年6月22日(木)23日(金)

場所：国立予防衛生研究所会議室

3. 第74回総会の件

新井総会長より第74回総会の説明がなされた。

日時：平成7年10月26日(木)27日(金)

場所：駒場エミナース(渋谷から井の頭線で駒場東大前下車徒歩3分)

内容：一般演題が中心

◇編集後記◇

3年間にわたってお読み下さった会員の皆様、原稿をお寄せ下さった先生がたに編集委員一同厚くお礼申し上げます。(T. A.)

日本細菌学会

関東支部ニュース

第23号

(1995.1.15)

発行：日本細菌学会関東支部

〒142 東京都品川区旗の台1-5-8

昭和大学医学部細菌学教室内

☎ 03-3784-8131
